

●余市町の位置



余市町は、北海道の積丹半島の基部に位置し、道都札幌市から60km、新千歳空港から100kmの距離にあります。北は日本海に面し、他の三方は緩やかな丘陵地に囲まれ、東から順に、小樽市、赤井川村、仁木町、古平町と接しています。

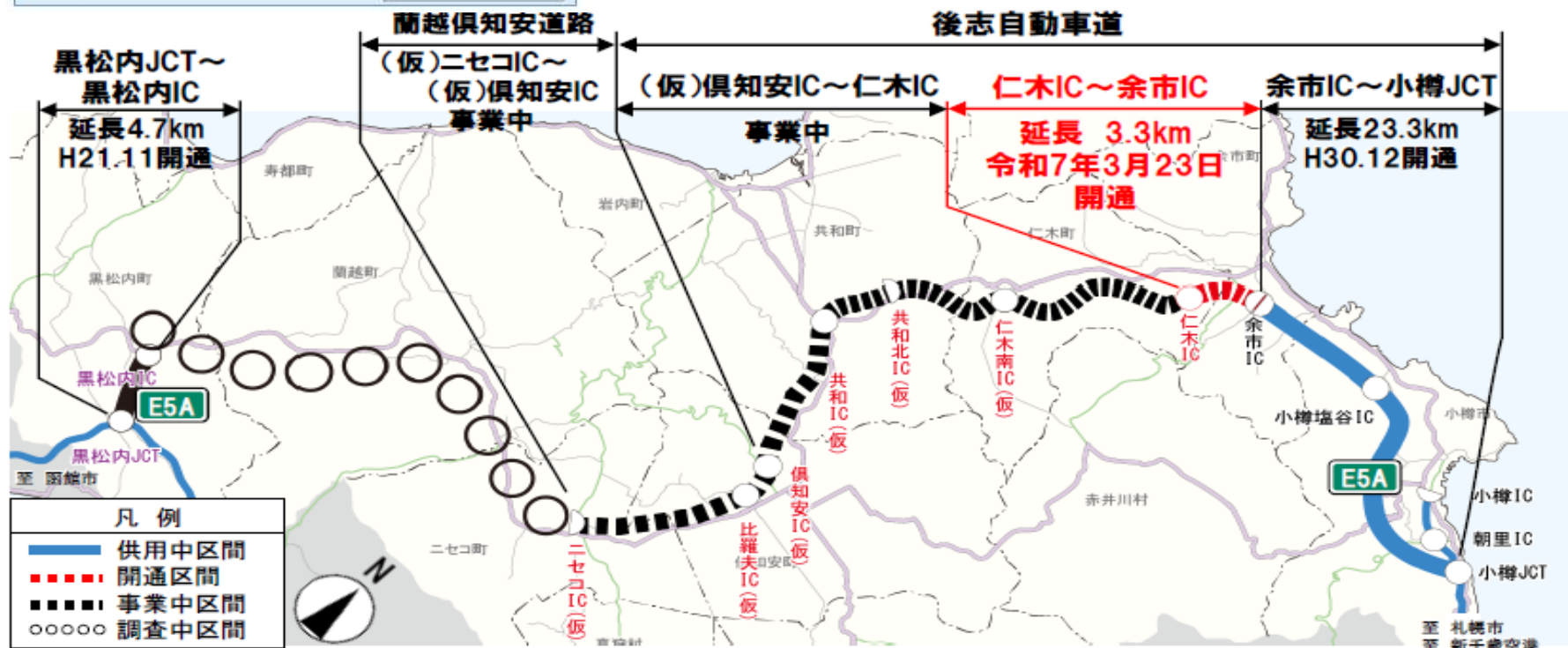
また、ニセコ積丹小樽海岸国定公園の一部にもなっており、美しい景観に恵まれた海岸線や河川流域は観光価値が高く、数多くの遺跡等の文化財とともに観光資源としてその活用が図られています。

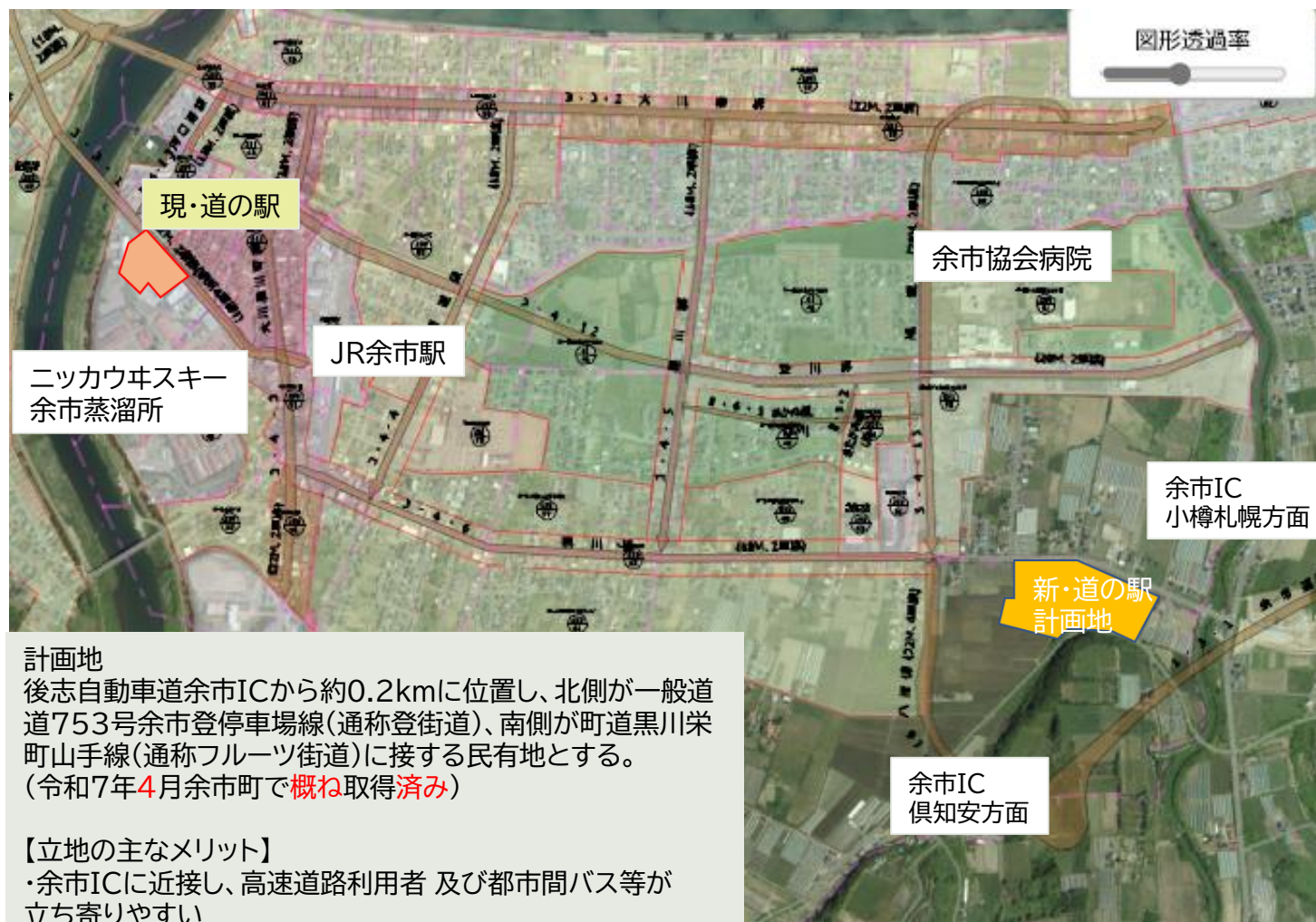


観光客の入り込み数の推移

区分	H31	R2	R3	R4	R5
観光客数 (人)	1,134,892	386,081	401,912	761,159	981,245
うち道の駅 (人)	197,716	166,813	164,047	256,865	272,099

(町商工観光課調べ)





計画概要

余市町「新たな道の駅」を核とする
交流拠点施設整備

計画敷地: 余市町黒川町672番ほか
都市計画区域: 都市計画区域内
用途地域: 用途地域の定めなし 白地地区
防火地域: 指定なし 建築基準法22条区域
敷地面積: 約45,000㎡
その他: 下水道区域外、敷地内に第1種農地
日影規制: -
ガス: プロパン

道路管理者: 北海道
北海道との一体型での整備を予定
駐車場・トイレ・休憩施設・情報提供
施設の一部を道路管理者が整備し、
その他を設置者が整備する。
整備方法は要協議

計画地

後志自動車道余市ICから約0.2kmに位置し、北側が一般道道753号余市登停車場線(通称登街道)、南側が町道黒川栄町山手線(通称フルーツ街道)に接する民有地とする。
(令和7年4月余市町で概ね取得済み)

【立地の主なメリット】

- ・余市ICに近接し、高速道路利用者 及び都市間バス等が立ち寄りやすい
- ・ヘリポートや医療機関、主要道路が近隣にあり、避難所、災害復旧拠点として救急搬送、応援等受入機能を導入しやすい

整備主体

本町における道の駅に当たっては、道路管理者である北海道と地域振興の主体である本町が連携して行う「一体型」での整備を想定している。

条件①用水路

前回の提案では、暗渠化し借地し緑地や一部通路として利用する計画

用水路：町の所有ではない。道路を挟み北側土地に利用者がいるため廃止不可（所有者余市川土地改良区）

暗渠化に際し、点検港の設置点検箇所までの導線の確保などの要件が発生する。

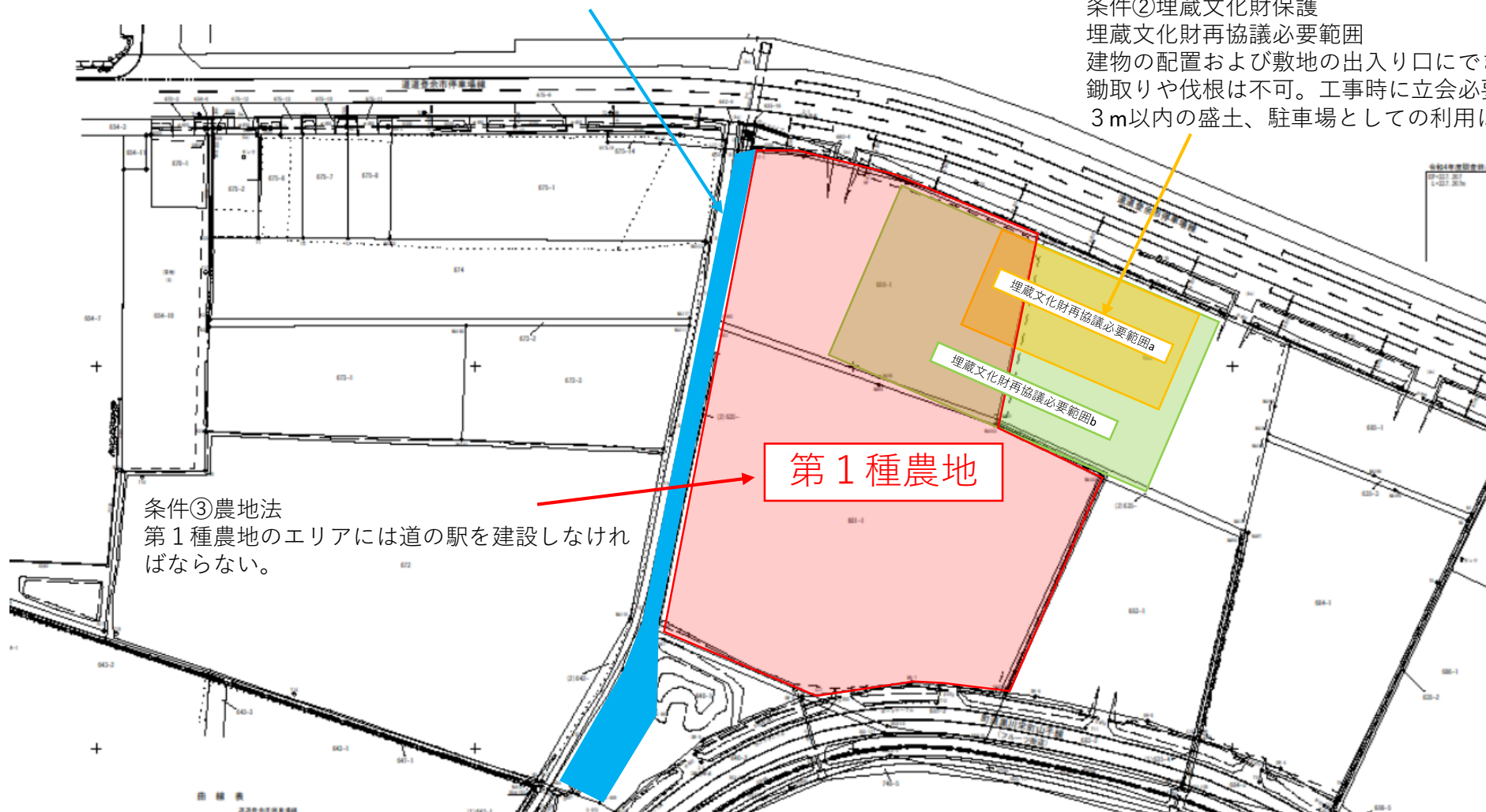
建物は建設できない。用水路と建物は用水路と離隔をとる。

条件②埋蔵文化財保護

埋蔵文化財再協議必要範囲

建物の配置および敷地の出入り口にできない。
鋤取りや伐根は不可。工事時に立会必要。

3m以内の盛土、駐車場としての利用は可能。



余市町が抱える課題

近年顕在化しているもの、また、今後懸念される課題は多いが、道の駅に関連したものは主に五つ挙げられる。

- ① 地域における持続可能な移動手段と地域観光資源を周遊するための移動手段の確保
- ② 倶知安余市道路の供用開始に伴う通過交通の増大への懸念
- ③ 休憩施設の確保
- ④ 地域の魅力発信機能の充実
- ⑤ 若者・子育て世代の町外流出への対応

「新たな道の駅」の必要性

背景 | 01 スペース・アップルよいち

ニッカと隣接し、毎年多くの観光客が訪れる一方で、利用者の満足度が低い



背景 | 02 交通環境の変化

後志自動車道
余市ICが開通し、
今後は倶知安方面へ延伸



事業の目的

- 利用者の満足度が高い道の駅の再編を行う
- 目的地となる観光拠点を整備する
- ICの乗降を促し、ドライブ観光客を取り込むような休憩施設を整備する

基本構想における整備方針とメインテーマ

整備方針

広域観光促進及び
産業振興のための
拠点形成



積丹半島やニセコへの分岐点というアドバンテージを活かし、地場産業を活性化させ、後志地域の観光拠点を形成する。

後志地域の
交通結節点の形成



高速道路利用者の受入を想定したSA/PAとしての役割を担い、更には路線バスや都市間バスなどと連携し、観光ハブ・ゲートウェイの拠点とする。

町民の
交流の場の形成



閑散期と繁忙期の入込客数を平準化するとともに、町民が日常的に利用できる空間の整備を行う。

基本構想における整備方針とメインテーマ

メインテーマ



道の駅の登録要件

「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能を併せ持つ必要がある。

- ・ 休憩機能 無料で24時間利用できる駐車場、清潔なトイレ、子育て応援施設（ベビーコーナー等）
- ・ 情報発信機能 道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）
- ・ 地域連携機能 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
- ・ その他 : 施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化
- ・ 設置者 : 市町村又は市町村に代わり得る公的な団体

導入機能	施設イメージ
休憩機能	道路利用者向け駐車場、24時間利用可能なトイレ、ベビーコーナー、休憩スペース
情報発信機能	観光案内スペース、アイヌ関連情報、道路情報
地域連携機能	セレクトショップ、農水産物直売所、フードコート、多目的スペース、バス停留所、オープンスペース、地域連携施設利用者向け駐車場
付帯施設	管理事務所、防災倉庫、自家発電施設

導入を検討する機能

道の駅の登録に必要な機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）のほか、町の課題等に基づき、次の機能の導入を検討する。

（１）地域防災拠点機能

過去に行った道の駅への再生可能エネルギー導入調査結果により実現性の高いとされた太陽光発電及び地中熱ヒートポンプ設備の導入を目指す。
災害などの非常時におけるレジリエンス機能を持った施設を検討する。



※導入の一例を図示したもの。

（２）アイヌ文化拠点機能

※当初は施設整備も検討していたが、現段階では、施設整備ではなく情報発信へシフトしている。

（３）町内の公共施設機能

町内の老朽化した公共施設機能について、道の駅計画地への移転及び集約を検討する。

地域住民のニーズ

(1) アンケート調査

令和5年度に実施した余市町民及び余市町公式LINE登録者へのアンケートにおいて、道の駅の建物内にあったら良いと思うものを選択する設問で最も多かった回答は「産直物販スペース」で、次いで「カフェスペース」、「観光案内・情報発信スペース」という結果となった。

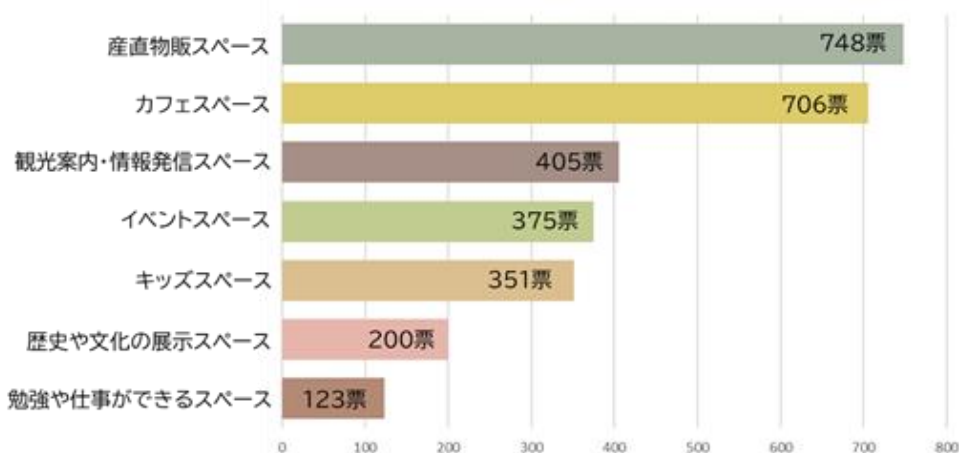


図 アンケート結果

また、新しい道の駅で販売してほしい余市のものとしては、「アップルパイ」、「果物」、「ワイン」などの回答が多かった。道の駅に関する意見を自由記述方式で問う設問においては、道の駅が町民の憩いの場としても利用でき、地元の経済活性化にも貢献することを期待する声が寄せられた。

(2) 町民説明会での要望

主な要望

- ・ 宿泊施設を作って欲しい。
- ・ 生産者が高齢化し、減少している状況を含めてよく考えて、生産者との調整を事前にしっかりとやって欲しい。
- ・ 防災センターのような仕組みを道の駅で作ったらどうかと思う。
- ・ ドッグランを整備して欲しい。
- ・ 町内の高齢者の活動が活発化する仕組みを作って欲しい。
- ・ 1日限りの出店ができるようなスペースを作って欲しい。
- ・ 余市タータンチェックを取り入れて欲しい。